

はじめに ..... 3

第一章 人間のはじまり ..... 13

- 1 奇妙な動物、人間 14
- 2 人間、その最初の第一歩 21
- 3 目と手と脳—hand-eye co-ordination 30
- 4 人間を生み出した様々な変化の相互作用 37
- 5 人間の祖先はヒトニザル 46

第二章 道具と生活 ..... 61

- 1 加曾利貝塚 62
- 2 飛礫 67
- 3 掘り棒から考える—道具が変わる、生活が変わる 72

第三章 農耕生活 ..... 79

- 1 解決できない行き詰まりの中で 80
- 2 農耕の基本 85
- 3 野生イネと栽培イネ 88
- 4 育種と稲作の拡大 91

5	村をつくる	93
6	農民の暮らしと自然観	101

第四章 農耕の大規模工業化……………115

1	道具作り・工業・大規模工業時代	116
2	農業の大規模工業化	119

第五章 人権の生物学的基礎……………137

1	人権、その様々な側面―環境権を例に	138
2	人権の生物学的基礎とは	145
3	子殺し	159
4	個体、性の起原と種分化―個体の自己同一性確立をめぐる	168
5	個体の進化―原核生物から哺乳類まで	184
6	動物の生存権から人間の人権へ	213
7	人権と生態的地位	219

第六章 言葉と考えること……………227

1	言葉の起原はわからないが	228
2	言葉の器官	230
3	言葉と表現	237

4 虚構という思考 247

第七章 都市・戦争・道具……………255

1 道具をめぐる 256

2 道具と精神文化 259

3 道具としての都市環境 264

4 道具と戦争 286

5 人間の道具化とウイルス化の問題 299

第八章 他者認識と他者意識……………301

1 人権は発展する 302

2 野生生物保全と他者意識 303

3 科学知が他者認識になるために 323

おわりに……………349

参考文献……………353